

経営比較分析表（令和5年度決算）

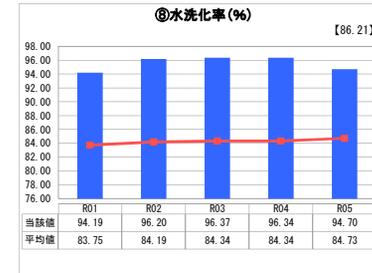
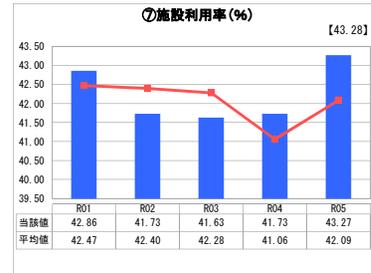
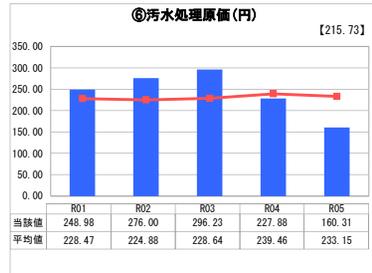
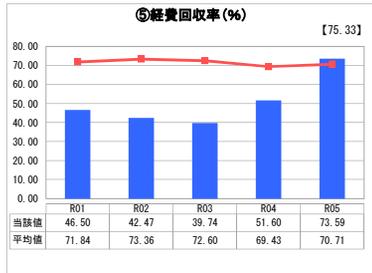
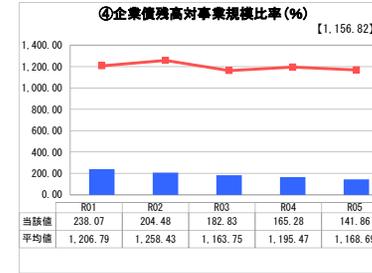
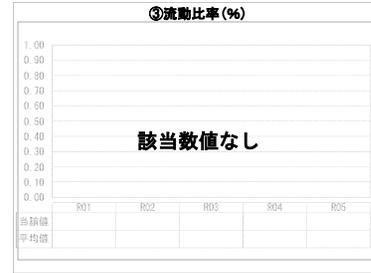
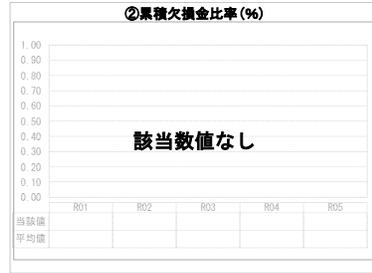
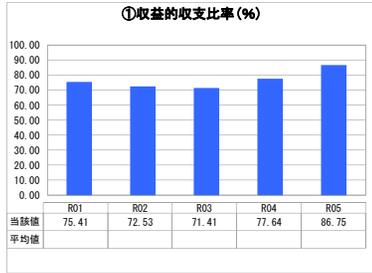
福井県 おおい町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	16.65	80.02	2,090

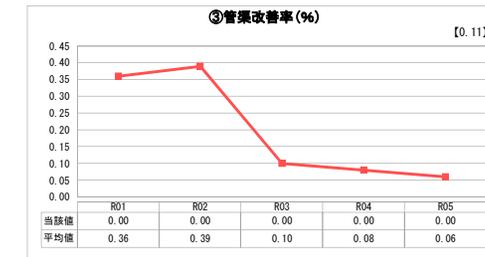
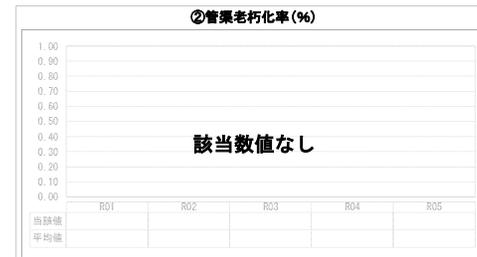
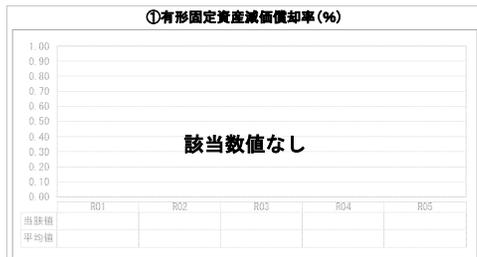
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,757	72.40	107.14
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,284	0.53	2,422.64

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益の収支比率は、徐々に上がってきているものの100%未満であり、不足を一般会計繰入金に頼っている現状である。とりわけ、地方債償還金が大きくなっている。企業債残高対事業規模比率は、類似団体と比べてかなり低い水準である。これは、事業開始時の建設改良にかかる起債以降、新たな起債を行っていないことが大きい。経費回収率は40~50%で推移していたところを、令和5年度は類似団体に近い73.59%にまで上がった。これは、打切り決算に伴う維持管理委託料の未払金が発生したためである。汚水処理原価については、年々上昇傾向にあるが、人口減少による料金収入の減少、施設の老朽化による修繕費用等の増加が影響しているものと思われる。なお、令和5年度は打切り決算により例年よりも低い値となっている。施設利用率は、横ばい状態で推移しているが、下水道事業の処理区の統合を図ることで今後利用率を上げることが検討されている。水洗化率は、整備が完了していることから今後横ばいが続くものと予想される。

2. 老朽化の状況について

本町の下水道事業は、平成5年度から管渠整備を行い、平成12年に供用開始をしている。このため、最も経年している管渠で30年となっている。従って、耐用年数の観点から考えれば現状として管渠の更新・老朽化対策は行っていない。一方、40年を経過する管渠においては施設等の事故率が高くなることから40年から耐用年数である50年を目途として管渠の更新・老朽化対策を計画する必要があると考える。但し、事前に点検を行い、その時の状況に即して更新を行う計画を考えている。また、重要な幹線管渠については定期的に管内点検を実施している。

全体総括

本町の下水道事業は、その整備が完了していることから今後大幅な加入世帯の増加が見込まれないこととスケールメリットの得にくい地域性などが課題として挙げられる。短期的な対策として、未接続世帯に対する加入促進は重要であるが、水洗化率が95%を超えるため伸び幅が狭く、水洗化率は横ばいが続くものと予想される。長期的な対策として、今後、人口減少を迎え、施設の余力が生み出されることが見込まれる。その余力の運用方法として、他の汚水処理区との統合を検討し、費用の圧縮、料金収入の増加を考えていく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益の収支比率の類似団体平均等を表示していません。